

水害対策を考える

目次 > 第4章 今後の対策の方向性 > 4-1 自助一予防策

4-1-5 地名は水害の履歴書

土地の歴史や特徴を現在に伝えるメッセージが地名に残されている場合がある。

「深」の文字が含まれれば、周囲より土地が低い可能性があり、「沢」の文字では、水のたまりやすい土地の可能性もある。

宅地開発などにより地名が変わっている場合もあるが、地域の図書館などでは、昔の地名を確認することは可能であり、水害対策のヒントになることもある。

過去に水害を経験した土地は、地名に特定の文字を含んでいる場合がある。

カワチ（川内）、ナダ（灘）、ウシ（牛）、サワ（沢）、フカ・フケ（深）、リュウ（竜）など



2004年7月・7月豪雨（山形県戸沢村）

かつて水田だった場所は現在でも水につかる可能性が高い。一方、先祖を祭る神社や仏閣は、水害を受けにくい場所に建てられていることが多い。昔の地図は図書館や国土地理院で入手可能である。

国土地理院ホームページ
[\(http://www.gsi.go.jp/\)](http://www.gsi.go.jp/)

